



逆瀬川 あゆみだより

NO.215 2025.5
社会福祉法人
聖隷福祉事業団
逆瀬川あゆみ保育園
宝塚市逆瀬川 2-2-8
TEL0797-77-0415

先日、出勤途中にうぐいすの鳴き声を耳にしたり、逆瀬川駅構内のつばめを見かけたりと、春の訪れを感じた瞬間がありました。日本は季節を感じ取れる素敵な国です。日々の忙しさはありますが、ちいさな気づきで心が癒されることもあるのでは・・・と最近よく思います。そんな気持ちを大切にしたいと思います。

子ども達は、園での生活にもだいぶ慣れてきたように思います。ただ、一人ひとり、思いや感じ方が違うのも当たり前ですので、焦らず、ゆっくり関わりながら、子ども達の思いに寄り添っていきたいと思います。笑顔で溢れる日々を待ち望みながら・・・

関西万博が始まりましたね。興味があって・・・という方ではなかった私ですが、来場する予定事になり、ガイドブックを先日、購入しました。それを読んでいて、未来はどんな風になるのだろう・・・というわくわく感と複雑な思いを持ちました。自分のクローンがいる世界、AIが考えてくれる世界、まるで映画の世界の様・・・何が必要で、何が正解なのかは誰にもわからない未来ですが、この子達が大人になる時、社会を、人を信じることができる世界であって欲しいと心から願います。社会や人を信じるためには、相手を尊重するからこそ、相手の気持ちや立場などを想像できるのだと思います。そして、豊かな関係が生まれ、深まり、やさしい社会になっていくのではないのでしょうか。

でも最近、そんな信頼関係や想像力が大きく損なわれつつあるように思います。匿名で投稿できるSNSは、身分を隠せば、他人を言葉で追い込んでいても発信に責任がありません。フェイクニュース（偽情報）も同様です。本当に何を信じればいいのか・・・と迷ってしまいますが、物事は、一方向から見るのではなく、自分が今見ているものが、他人にはまったく違うものに見えているかも知れないということを意識したいものです。こうした想像力を養うには、読書が有効だと聞いたことがあります。ネットには、情報や記号が溢れていますが、本は単なる情報ではなく、行間から世界が多面的で多層的であることを教えてくれます。そして、人生をより深みのあるものにしてくれるでしょう。幼い時から本に触れることも、とても良いかも知れませんね。ゆったりとした時間の流れや本を通して、向き合える空間など、きっと心地よさが子どもの心に素敵な時間として、残っていくのではないのでしょうか。

自園の職員で、絵本が大好きな職員がいますが、文章の組み立てが本当に素敵で、思わず「うん、うん」とうなずいてしまい、文章がさりげなく心に入ってくるような・・・子育て支援担当ですので、毎月1回、「すくすくだより」を発行しています。玄関ホールに置いてありますので、是非、ご覧下さい。ホームページでもご覧頂けます！宣伝でした（笑）

辻田 紀子

イースター

21日(月)新しいクラスになって、うさぎぐみ・ひつじぐみは、イースターの卵探しを楽しみました。

ひつじ組は、先月から礼拝を守っていますが、聖書のお話をしっかり目を見て聞いてくれています。イースターはイエスさまが復活されたことを喜ぶ日というお話もしっかり聞いていましたよ。卵探しでは、ひつじぐみの室内に隠してある卵を一生懸命探したり、見つけて嬉しそうな表情を見せてくれたり、可愛らしい姿でした。きっと神様も見守ってくださったことでしょう。神様が復活された嬉しさと重なってくれたらと思っています。

(登降園時のお荷物準備について)

朝、登園の際、お子さんと一緒にお荷物の準備をした後に、お子さんの保育室入室をお願いします。お迎え時には、まずお子さんを迎えていただき、その後一緒にお帰りのお荷物の準備をしていただきたいと思います。子ども達は誰よりもお母さんやお父さんのお迎えを待っています。まず「ただいま～」と抱きしめてあげてくださいね。

4月12(土)懇談会に、たくさんのご参加ありがとうございました。

りすぐみ・うさぎぐみは9:00~9:45 ひよこぐみ・ひつじぐみは10:10~10:55と2部制で行いました。懇談会は、園からのお知らせ等をお伝えする場でもありますが、保護者の方同士や保育者と繋がり、思いを共有したり、交流したりする機会になればという思いをもって行いました。保護者の方々の楽しそうにお話をされてる様子やアイスブレイキングのゲームで盛り上がっている姿がありました。担任からの「こんな1年にしたい!」という思いも届きましたでしょうか?今年度も保護者の方々と一緒に、子どもたちが生き生きと生活できる場所を作っていきたいと思っています。今年度も、どうぞよろしくお願ひいたします。



お誕生日おめでとう



5名のおともだち
すくすくおおきなあれ♪

主は羊飼ひ

「主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。」(詩編23:1)



宝塚栄光教会牧師 岩間 洋

羊という動物は、よく臆病で弱いと言われます。ちょっとした物音にも驚いて、走り出します。ほかの羊たちもつられて、わけもわからずに走り出します。羊は群れを成してでなければ安心して生きていきません。もし群れから迷い出すと、自力では戻って来られません。まるで私たちのようですね。このような羊に必要なものは、良い羊飼ひです。羊飼ひは、羊たちの性格や癖までよく知っていて、それぞれに合うケアをします。危険が迫れば、身体を張って羊たちを守ります。

イエス・キリストは、羊のように弱い私たちの羊飼ひとなってくださいました。主イエス様は、私たち一人一人をよく知ってください、私たちに必要な霊の糧であるみことばを与えて養ってくださいます。何よりも、主は十字架にかかって、私たちを罪と滅びから救い出してくださいました。この羊飼ひである主に信頼して従って行くなれば、何も恐れることなく、平安でいることができるのです。